総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業実践事例

都道府県名	福島県	受託団体名	（財）福島県体育協会（うつくしま広域スポーツセンター）

実践テーマ　子どものスポーツ活動の充実

～地域の子どもたちやその家庭がともに楽しめるスポーツ環境の充実

【テーマ設定の理由】

近年、子ども体力の低下が社会問題となっている。このような状況の中、総合型クラブが子どもたちにスポーツ環境を提供することで体力の低下に歯止めをかけ、地域住民や保護者、指導者が一体となって子どもを育てるという気運を高めるため。

実践クラブ評価委員会

1 菊池辰夫（（財）福島県体育協会医科学委員）
2 佐藤弘美（福島県企画調整部地域政策課長）
3 鈴木浩一（うつくしま広域スポーツセンター長）
4 丹治光雄（福島県レクリエーション協会理事）
5 中澤　謙（会津大学准教授）
6 本田俊教（福島県指導者連絡協議会顧問）
7 水戸眞由子（福島県スポーツ振興審議会委員）

課題解決のために連携をとった機関・団体

■会津大学　■
■福島市教育委員会　■
■福島市小学校長会　■
■福島市中学校長会　■

【上記機関・団体と連携をとった効果】

福島市内小中学校10校を対象にアンケートを実施する際、広域スポーツセンター職員が福島市教育委員会及び福島市小中学校長会長に協力を依頼し、小中学校への周知を図ることができた。

実践クラブ名　特定非営利活動法人エフ・スポーツ

【クラブ概要】

・設立年月日　平成　13 年　4 月　27 日　設立

・クラブ所在地　福島県福島市霞町４－４５

・クラブの特色　青少年の一貫指導と生涯スポーツの実践、会員間と地域住民の交流を目指し、既存するスポーツ少年団を中心に設立された。特に地域の子どもたちを対象としたサークルやイベント等を多く開催し、地域づくりの一翼を担っている。

・クラブマネジャーの活動状況　常勤1名（有給）

・会員数（H20.7.1現在）　556　人　・定期活動種目数　16　種目

・会費の種類と金額
入会金：大人・中高生　1,000円
年会費：10,000円、家族会員17,000円(2人)、15,000円(3人)

・平成20年度総予算額　7,816,339　円

実践プロジェクト① 小学生スポーツコーポレーション（体操）

◆プロジェクトのねらい

小学生の子どもたちが多くのスポーツ種目を体験し、スポーツ本来の楽しさを味わわせることにより、自分にあった種目を見つけ出すことを目的とする。

◆実施概要

講師　管野昌子、佐藤朋子、半澤由美子
期日　平成20年6月～平成21年1月まで月2回程度合計11回
マット運動や跳び箱など様々な種目を子どもの能力に応じて体験させることで、体操への関心を高め、柔軟性を身につけることを目的とする。

◆参加者数　6/10（10名）、7/15（10名）、8/12（9名）、8/19（9名）、9/2（10名）、9/16（10名）、10/7（9名）
10/28（9名）、11/4（20名）、12/9（20名）、1/13（19名）

◆活動の様子

◆評価

柔軟性を身につけさせるためのストレッチは痛さや辛抱強さを伴うため小学生には根気が必要であった。マット運動や跳び箱は達成感を伴うため、できる子どもは次の技へ挑戦するなど自分の能力にあわせて積極的に運動に取り組む姿が見られた。また、保護者は回数が増えるにつれて器具準備の手伝いをするなど、子どもたちと一緒に活動姿が見られるようになった。

実践プロジェクト② 小学生スポーツコーポレーション（レクリエーション・球技）

◆プロジェクトのねらい

小学生の子どもたちが多くのスポーツ種目を体験し、スポーツ本来の楽しさを味わわせることにより、自分にあった種目を見つけ出すことを目的とする。

◆実施概要

講師　大槻喜美、福島絵理、古谷園子、伊藤朋子、半澤由美子、佐藤広美、田口侑義、高橋義明
期日　平成20年6月～平成21年1月まで月2～3回程度　合計19回
レクリエーションや球技で楽しく身体を動かすこととによる体力の向上と、仲間と交流させることを実施する。

◆参加者数　6/7（27名）、6/14（39名）、6/28（29名）、7/5（32名）、7/19（26名）、7/26（21名）、8/2（16名）、8/30（35名）、9/6（33名）、9/20（25名）、10/18（36名）、10/25（32名）、11/15（38名）、11/22（26名）、11/29（36名）、12/6（38名）、12/20（35名）、1/10（38名）、1/24（26名）

◆活動の様子

◆評価

レクリエーションや様々なニュースポーツを体験することで、子どもたちは楽しく活動することができ、身体を動かす楽しさを体験させることができた。また、適度な運動などは保護者も参加するようになり、子ども保護者の一体感が感じられるようになった。

実践プロジェクト③　中学生スポーツコーポレーション（バレーボール）

◆プロジェクトのねらい

部活動終了後に運動ができない中学校3年生や自分がやりたい種目ができない生徒を対象にバレーボールのプログラムを提供することで、高校進学後に自分の希望するスポーツにスムーズに移行させることをねらいとする。

◆実施概要

講師　西坂伸也、渡邊あけみ、今田道子、中根一昭、伊藤隆司
期日　平成20年8月～12月まで月2回程度　合計10回
高校生規格のボールを使用して基礎基本の定着をめざし開催する。

◆参加者数　8/7（12名）、8/21（12）、9/11（19名）、9/25（14名）、10/9（12名）、10/23（12名）、11/6（13名）、11/20（12名）、12/4（15名）、12/18（17名）

◆活動の様子

◆評価

高校生規格のボールやネットを使用して、バレーボールの公認指導者が基礎・基本を丁寧に指導することに重点を置いた。中学校での指導の違いに徐々になれ、高校での活動意欲につなげることができた。また、指導者の中には地域住民の方がおり、子どもや保護者とのコミュニケーションづくりになったようである。

実践プロジェクト④　中学生スポーツコーポレーション（サッカー）

◆プロジェクトのねらい

部活動終了後に運動ができない中学校3年生や自分がやりたい種目ができない生徒を対象にサッカーのプログラムを提供することで、高校進学後に自分の希望するスポーツにスムーズに移行させることをねらいとする。

◆実施概要

講師　佐藤　昇、川瀬周平、大槻喜美
期日　平成20年7月～12月まで月3回程度　合20回
サッカーに必要な基礎体力の向上と、基本技術を身につけさせること。また、ミニゲームによりサッカーの本来楽しさを体験させる。

◆参加者数　7/26（3名）、8/4（3名）、8/11（4名）、8/18（5名）、8/25（5名）、9/1（5名）、9/22（6名）、9/29（7名）、10/5（6名）、10/12（6名）、10/17（5名）、10/18（5名）、10/27（6名）、11/3（6名）、11/23（5名）、11/30 （5名）、12/1（6名）、12/8（6名）、12/15（5名）、12/22（5名）

◆活動の様子

◆評価

参加者が少なかったのが残念であるが、マンツーマンに近い状況で内容の濃い指導をすることができた。そのため、技術の定着が確実であった。

実践プロジェクト⑤　中学生スポーツコーポレーション（卓球）

◆プロジェクトのねらい

部活動終了後に運動ができない中学校3年生や自分がやりたい種目ができない生徒を対象に卓球のプログラムを提供することで、高校進学後に自分の希望するスポーツにスムーズに移行させることをねらいとする。

◆実施概要

講師　三瓶英行、橋本恭子、古谷園子、手塚　健
期日　平成20年8月～12月まで月4回程度　合20回
卓球に必要な基礎トレーニングと実践トレーニングや基本技術を身につけさせる。

◆参加者数　8/6(10名)、8/13(10名)、8/20(11名)、8/27(11名)、9/3(11名)、9/10(11名)、9/17(11名)、9/24(11名)、10/1(11名)、10/8(11名)、10/15(10名)、10/22(11名)、10/29(11名)、11/5(11名)、11/12(10名)、11/19 (11名)、11/26(11名)、12/3(11名)、12/10(11名)、12/17(11名)

◆活動の様子

◆評価

開始当初は基礎基本が確立されていなかったため、基本の見直しと個人の能力にあった練習メニューで実施した。後半になるにつれて積極性も見られるようになり、高校での活動の意欲付けが図られた。

実践プロジェクト⑥　中学生スポーツコーポレーション（硬式野球）

◆プロジェクトのねらい

部活動終了後に運動ができない中学校3年生や自分がやりたい種目ができない生徒を対象にスポーツを提供することで、高校進学後に自分の希望するスポーツにスムーズに移行させることをねらいとする。

◆実施概要

講師　松村幸雄、八島貴幸、紺野大輔、今田大介、二階堂達也、佐藤武明、大歳憲一、五十嵐俊道
期日　平成20年8月～12月まで月4回程度　合20回
硬式ボールに慣れさせることと、肩や肘の傷害の防止、また、高校野球の練習スタイルを視野に入れて練習を実践する。

◆参加者数　8/ 3(31名)、8/10(25名)、8/17(31名)、8/24(28名)、8/31(25名)、9/7(23名)、9/14(28名)、9/21(29名)、9/28(21名)、10/5(21名)、10/12(29名)、10/18(18名)、10/19(26名)、11/2(17名)、11/9(18名)、11/16 (14名)、11/23(24名)、11/30(24名)、12/7(19名)、12/14(27名)

◆活動の様子

◆評価

個人のスキルアップは差があるものの、4ヶ月間硬式ボールを使用した練習は、高校入学後も心身ともに違和感なく練習に取り組める姿勢が身に付いたと思われる。また、練習を見学する保護者が大変多く、保護者同士の交流の場となっていた。

実践プロジェクト⑦　第1回スポーツコラボレーション「フラッグフットボール教室」

◆プロジェクトのねらい

ニュースポーツの教室を開催し、楽しく身体を動かすことでスポーツ好きの子どもたちを増加させることをねらいとする。

◆実施概要

講師　寺田　隆将（特定非営利活動フラッグフットボール・マネジメント・ジャパン）
期日　平成20年6月21日　　対象　小学生　　募集方法　チラシ配布
遊び感覚を大切にしながらボールの握り方、投げ方、取り方などの基本動作を指導し、その後、オフェンス、ディフェンス練習、ゲームを実施した。

◆参加者数　　45名

◆活動の様子

◆評価

子どもたちにとっては初めて体験する種目であり、遊び感覚を大切に指導したため、ボールを使用したトレーニング、鬼ごっこなど小さい子どもから無理なく楽しむことができた。子どもたちにスポーツの楽しさを味わわせることができたと思われる。

実践プロジェクト⑧　第2回スポーツコラボレーション「野球肩・野球肘の障害とその予防のためのストレッチ」

◆プロジェクトのねらい

医療セミナーを開催し、怪我の防止と予防並びにスポーツの重要性を保護者や地域住民・小中学生教員に啓発することをねらいとする。

◆実施概要

講師　大歳憲一（福島県立医科大学整形外科）
期日　平成20年8月10日　　対象　中学生　　募集方法　チラシ配布
青少年に多いスポーツ障害である野球肩・肘の原因と予防のストレッチやトレーニングのセミナーを開催した。

◆参加者数　　32名

◆活動の様子

◆評価

子どもたちはスポーツ障害や予防方法について理解を高めることができた。また、引率で見学した保護者の方々にもセミナーや委託事業の啓発となった。

実践プロジェクト⑨　第3回スポーツコラボレーション「ジュニア成長期におけるスポーツ障害の対策と予防」

◆プロジェクトのねらい

医療セミナーを開催し、怪我の防止と予防並びにスポーツの重要性を保護者や地域住民・小中学生教員に啓発することをねらいとする。

◆実施概要

講師　杉浦弘一（福島大学人間発達文化学類准教授）
期日　平成20年11月29日　　対象　小学生以上　　募集方法　チラシ配布
親や指導者を対象にスポーツをしている子どもたちが成長期に直面するスポーツ障害の原因と予防のセミナーを開催した。

◆参加者数　　28名

◆活動の様子

◆評価

参加した保護者や指導者はオスグット病やジャンパー膝などの原因と予防について理解を深めることができた。また、セミナーを開催したことにより地域への事業やクラブの啓発になった。

実践プロジェクト⑩　第4回スポーツコラボレーション「オリジナルドリンクをつくろう～補助食品の採り方」

◆プロジェクトのねらい

医療セミナーを開催し、怪我の防止と予防並びにスポーツの重要性を保護者や地域住民・小中学生教員に啓発することをねらいとする。

◆実施概要

講師　山崎有理子（公立藤田総合病院管理栄養士）
期日　平成20年12月6日　　対象　小学生以上　　募集方法　チラシ配布
親や指導者、子どもを対象に食生活の現状や見直し、また適度な水分補給法についての講話と、補助食品やスポーツドリンクの作り方のセミナーを開催した。

◆参加者数　　20名

◆活動の様子

◆評価

参加者は子どもたちの食生活の乱れていることや水分補給による熱中症予防などの理解を深めた。また、親子で参加している家族が多く、保護者を巻き込むことができ、「子どもから親を変える」といったスタンスに近づくことができた。

実践プロジェクト⑪　第5回スポーツコラボレーション「スポーツと甲子園」

◆プロジェクトのねらい

トップアスリートを招き講習会（セミナー）を開催し、スポーツ好きの子どもたちを増加させるとともに、スポーツの重要性を保護者や地域住民・小中学生教員に啓発することをねらいとする。

◆実施概要

講師　斎藤智也（聖光学院高校野球部監督）
期日　平成20年12月6日　　対象　小学生以上　　募集方法　チラシ配布
「甲子園への道のり」と題して、そこに至るまでの練習内容や精神論、また、指導方法を実際に甲子園まで導いた監督の講話聞くセミナーを開催した。

◆参加者数　　80名

◆活動の様子

◆評価

年代を問わず多くの参加者が集まった。実際に甲子園へと導いた講師の方から聞く話は、参加者のスポーツに対する取組方が積極的なるきっかけとなったようである。

実践プロジェクト⑫　第6回スポーツコラボレーション「小学生ハンドボール教室」

◆プロジェクトのねらい

トップアスリートを招きスポーツ教室を開催し、スポーツ好きの子どもたちを増加させるとともに、スポーツの重要性を保護者や地域住民・小中学生教員に啓発することをねらいとする。

◆実施概要

講師　田口侑義（元日本リーグムネカタ監督）
期日　平成20年12月7日　　対象　小学生　　募集方法　チラシ配布
初心者の小学生を対象にハンドボールとはどんなスポーツなのかを体験してもらい、ハンドボールに興味関心を持つ子どもを育成することをねらいとする。

◆参加者数　　16名

◆活動の様子

◆評価

初心者向けのプログラムを体験させたため楽しく活動することができた。また、参加した小学生は他競技のスポーツ少年団で活動しているものも少ないため、新しい競技を体験することにより自分合った種目を選択する機会となったと考えられる。

実践プロジェクト⑬　第7回スポーツコラボレーション「トランポリン教室」

◆プロジェクトのねらい

トップアスリートを招きスポーツ教室を開催し、スポーツ好きの子どもたちを増加させるとともに、スポーツの重要性を保護者や地域住民・小中学生教員に啓発することをねらいとする。

◆実施概要

講師　外村哲也（北京オリンピック4位）
期日　平成20年12月23日　　対象　小学生　　募集方法　チラシ配布
北京オリンピックに出場した外村選手を招きトランポリン教室を開催した。実技指導だけではなく質問やゲームなども企画した。

◆参加者数　　79名

◆活動の様子

◆評価

実際にオリンピックに出場した選手の演技を観たり指導していただくことで、参加者は「もっと観たい・跳びたい」といった、スポーツをやりたいという意欲づけになったと思われる。また、保護者も飛び入りで参加するなど親子一緒に体験することができた。

実践プロジェクト⑭　第8回スポーツコラボレーション「児童心理学セミナー」

◆プロジェクトのねらい

児童心理学に関するセミナーを開催し、「思春期の身体や心」をテーマに講話を実施し、事業の重要性を保護者や地域住民・小中学生教員に啓発することをねらいとする。

◆実施概要

講師　西内みなみ（桜の聖母短期大学生活学科教授）
期日　平成21年1月14日　　対象　保護者・指導者　　募集方法　チラシ配布
親や指導者が直面する思春期の子どもの心理面や指導法など、「子どもに伝えたい性・いのち」をテーマに講話を開催した。

◆参加者数　　15名

◆活動の様子

◆評価

思春期の子供を持つ親にとっては大変興味のある内容であった。また、指導者にとっても指導法を振り返えりながら、子どもの居場所づくりとしての総合型クラブの必要性を考える機会となった。

実践プロジェクト⑮　第9回スポーツコラボレーション「小学生バスキッズステップアップスクール」

◆プロジェクトのねらい

小学生を対象にスポーツ教室を開催し、スポーツ好きのの子どもたちを増加させるとともに、スポーツの重要性を保護者や地域住民・小中学生教員に啓発することをねらいとする。

◆実施概要

講師　渡部浩一（日本体育協会上級コーチ・県立福島高校教諭）
期日　平成21年1月24日　　対象　小学6年生　　募集方法　チラシ配布
中学生になるとボールの大きさやリング高さが変わるため、中学入学後、部活動に入部しても戸惑いなく活動できるよう開催した。

◆参加者数　　102名

◆活動の様子

◆評価

他の小学生や指導補助として参加した高校生と交流が図られ、互いに刺激となって活動する姿が見られた。また、ボールやリングなど環境の変化に対応することで、高校進学後のバスケットボール部入部の意欲付けが図られた。。

その他の取組

本事業の検証として、福島市内小中学生及び保護者3，068名に対してアンケート調査を実施した。

本事業の成果

「小学生スポーツコーポレーション」では、小学生に遊び感覚から身体を動かすことのできる数々のプログラムを提供し、楽しく活動する子どもたちを見ると、子どもたちに身体を動かす楽しさを実感させるきっかけ作りになったと考えられる。また、「中学生スポーツコーポレーション」では、部活動を引退した中学生にスポーツ環境を提供できたことは、高校進学後に部活動入部への意欲付けとしては効果が大きいと考えられる。「スポーツコラボレーション」では、会員ばかりでなく地域住民を対象に実施でき、啓発活動につながったと考える。

本事業の課題と今後の取組

子どものスポーツ環境を充実させる点では大きな成果が上がっているが、地域づくりという点では地域住民の参加者が少なかった。クラブや地域住民が一体となって子どもを育てるためには、より多くの地域住民や子どもの参加が必要である。そのため、地域住民や子どもを対象にしていることを考慮すると、やはり学校との連携が不可欠ではないかを思われる。今後は学校への連携・啓発のあり方や、PTAや自治会の本事業の参加などが必要ではないだろうか。

（本件問合せ先：うつくしま広域スポーツセンター　024－526－4680）